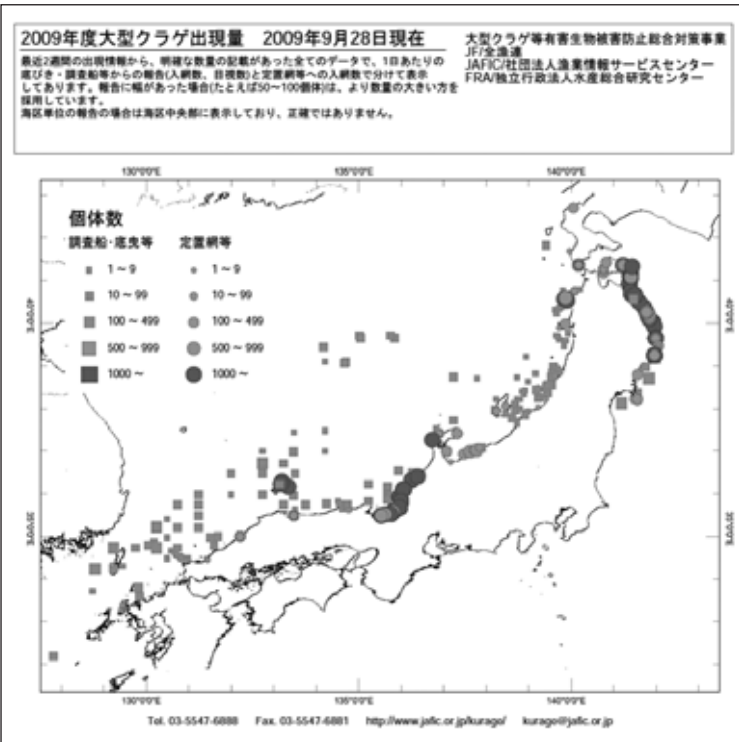




# 何でも兼ッティング

## No.70 『厄介者、南方より来る?』



この原稿が活字になる頃は、底びき網漁業が解禁から一月程経過し、定置網漁業もサケ漁が本格化する一歩手前といった時期でしょうか。ここ数年、各漁業に多大な損害を与えた厄介者のエチゼンクラゲは現時点(8月下旬)では西の海でもなりを潜めています。:

昨年は、6月中旬に済州島に出現し、7月上旬には対馬近海に出現後、漸増傾向で、日本海を東進北上し、底びき網漁業の解禁日には山形県沿岸にも出現しました。また、出現した各海域では日を追うごとに数の増加がみられました(図一大型クラゲ出現量・2009年9月下旬)(JAFIC提供資料)。さらに、その後は年末まで状況が変わらないといった状態で、エチゼン

クラゲが来襲するようになって最悪の年となつてしまいました。

今年はいよいよ、8月下旬現在で朝鮮半島南西海域の東シナ海で高密度の出現の情報があつたものの、朝鮮半島の韓国沿岸に少数出現の情報があつた程度で、日本近海での出現情報は島根県沖の大型クラゲ1個体の確認だけです。しかし、東シナ海の高密度出現情報があること、2007年のように9月下旬にまとまった出現が認められた事例もありますので、今後とも大型クラゲの情報に注意してください。

最近では、各家庭にインターネットが普及し、最新の情報を簡単に入手することが出来ます。大型クラゲの情報については、インターネットを利用できる場合は、グー

グル等の検索サイトで日本海区水産研究所もしくはJAFIC(漁業情報サービスセンター)で検索をしてから大型クラゲで絞り込み検索をすれば、最新の情報が得られます。日本海区水産研究所の大型クラゲ情報のホームページからは韓国国立水産科学院による韓国沿岸域を中心とした出現情報や日本国内の大学や水産研究所等の東シナ海や日本海南海域の情報も手にはいります。JAFICの大型クラゲ情報のホームページからは漁業関係団体、道府県の水産研究機関等からの情報をも

とに、日本海を中心とした毎日の出現情報が手にはいります。

また、インターネットに縁が無い方は、水産試験場が随時、県漁協の各支所に情報発信していますので、各支所での情報を確認してください。

水産試験場では現時点で大型クラゲ発生情報を第3報まで県内に発信しています。第1報は「東シナ海中部での少数出現」の情報と日本周辺ではみられないといった情報でした。また、第2報は水産総合研究センターの東シナ海中部での調査結果として、出現情報「少数出現」と調査結果を利用して出現予想「8月下旬に対馬海峡付近に出現の可能性あり。出現量はかなり少ない」という情報でした。第3報は漁業情報サービスセンターの情報で、鳥取県水産試験場の目視調査において、島根県沖で1個体の大型クラゲを確認したとの、今期初めての日本近海での出現情報でした。

先程、「今後とも大型クラゲの情報に注意してください。」と書き込みましたが、県内の漁業者をはじめとする各道府県の漁業関係者や水産研究機関からの情報が集められて、JAFICのホームページになります。なかでも、JAFIC発行の大型クラゲ出現位置マップ等(日毎の分布情報等・図一大型クラゲ出現量)は各道府県の詳細な来遊状況の把握と報告で成り立っています。山形県においても詳細な来遊情報を入手する必要があります。このため、関係漁業者や関係機関の協力を必要としており、なお一層のご協力をお願いいたします。

この号が発行される頃に、情報提供表を関係各船に配布し、情報提供をお願いすることになっておりますので、その配布及び回収についてよろしく願います。

水産試験場 浅海増殖部 鈴木 裕之